

第3次芦屋市地域福祉計画策定にかかる 検討部会（ワーキングチーム）からの提案

1. 取組の経過

(1) 検討部会のねらい

- ・平成27年度に実施した「市民会議」の提案や「市民意識調査」の結果、第2次芦屋市地域福祉計画の進捗状況と課題などをふまえ、第3次芦屋市地域福祉計画で重点的・先導的に取り組む事項について具体的な検討を行い、実効性のある計画づくりに反映するよう提案しました。
- ・検討を通じて、地域福祉をすすめるプロジェクトを公民協働で推進する仕組み（※）を強化し、計画推進の一翼を担う体制を充実することをめざしました。
（※）第2次芦屋市地域福祉計画で「地域福祉アクションプログラム推進協議会」を設置しました。

(2) 検討部会の位置づけ

- ・地域福祉計画策定委員会のワーキングチームと位置づけ、テーマに基づく活動・事業の具体化に向けた検討に関わる幅広い市民に参加を呼びかけて開催しました。

(3) 検討部会の経過

- ・第1回の全体会で、検討するテーマとして次の3つを選定し、グループをつくりました。

① あしや発信局玉手箱	IT等も活用した情報の発信の仕組みづくり
② スマートおせっかい	つながりや活動の場となる居場所づくり
③ ひとりー役	だれもが気軽に支えあうための参加の仕組みづくり

- ・各グループでは、テーマに応じて「参加してほしい人」にも呼びかけながら、話しあい（グループ会議など）や、プロジェクトの実施に向けた取組をすすめました（下表）。
- ・保健福祉フェアでも各グループの取組を報告し、参加を呼びかけました。
- ・第2回の全体会で、各グループの報告をもとに、取組を通じて感じた「第3次芦屋市地域福祉計画に盛り込んでほしいこと」や「策定委員会で検討したこと」を、提案として出しあいました。

(今後の予定)

- ・各グループは、年度末を目途に一定のプロジェクトを立ち上げていくよう、継続して話しあいや具体的な取組を行っていきます。
- ・来年度以降は、第3次芦屋市地域福祉計画のPDCAとも連動させて、活動・事業を推進します。

各グループの取組の経過

① あしや発信局玉手箱グループ
・グループ会議 [6月23日, 7月4日, 7月12日, 8月18日, 9月7日] ・Facebook（芦屋のことなら何でも告知掲示板）で保健福祉フェアの情報を発信 [7月22日]
② スマートおせっかいグループ
・グループ会議 [6月24日] ・芦屋市創生ワーキングチームとの交流会（合同会議） [8月4日, 8月25日] ・東灘こどもカフェ見学（芦屋市創生ワーキングチームと合同） [7月11～13日] ・『居場所』サミットin神戸参加（他市の事例の学習） [8月7日]
③ ひとりー役グループ
・グループ会議 [6月23日, 7月7日, 7月14日, 8月19日, 9月15日] ・まごのて定例会参加 [8月1日, 9月5日]

2. 各グループで検討・実践したこと

- ・これまでの各グループの取組を通じて話しあったり実践したことについて、第2回の全体会で報告しました。要旨は以下のとおりです。

(1) あしや発信局玉手箱グループ

- ・あしや発信局玉手箱グループは Facebook を利用した情報発信ツールの作成をめざしています。従来の情報発信の方法（広報あしややチラシなど）では載せられる情報や伝わる人が限られるという課題がありましたが、Facebook を利用することでこまめに更新し、一度に多くの人に見てもらうことができます。
- ・このプロジェクトは、広報あしやには載せきれない小さなイベントも積極的に発信するとともに、協働して双方向の情報発信媒体をつくることで、市民と市の架け橋になったり、Facebook を開設している観光協会や市内のグループ（例えば、3,374人の市民が参加している「芦屋のことならなんでも告知掲示板」）などをつなぐ役割を担うことも目的としてすすめていきたいと思っています。
- ・今後は、Facebook のアカウントを取得してグループを運営し、グループに参加している人が自由に情報発信できる仕組みをつくりたいと思っています。まず紙媒体で配付している情報を電子化することから始め、徐々にかたちにしていきます。そのため、グループの運営に必要なルールの設定や体制の確立、活動内容や頻度について、話しあいを深めていきます。また、媒体をつくってから周知や使い方講座など、情報の受け手にも積極的に興味をもってもらえる工夫も考えていかなければならないと思っています。
- ・全体会で、若い人にも見てもらいたいのであれば、Twitter や Instagram など取り入れ、イベントの写真を Instagram にアップし、Facebook に連動させる方法なども考えてはどうかという意見をいただきました。グループではブログなども含めているいろいろな方法を考えたうえで、トラブルを防ぐため実名で発信する Facebook を選びましたが、ここから始めて Instagram など考えていけると思っていますので、情報発信について知識のある人にも参加していただき、教えてもらえればと思います。

(2) スマートおせっかいグループ

- ・スマートおせっかいグループでは、居場所について議論してきました。一方、芦屋市では昨年度末に策定した「芦屋市創生総合戦略」で、少子高齢化と人口減少がすすむなかで芦屋市の魅力を発信し、多くの人に住んでもらえるまちにするために2つの目標を立て、この目標に向かって何ができるか、職員が部や課を超えて出しあったアイデアのひとつが「全世代に対応できる居場所づくり」でした。
- ・そこで、いっしょに話しあうことにして、まず先進的に取り組まれている「東灘こどもカフェ」の見学に行き、そこで出されているお弁当を食べながら、わいわいお話をしたことが、とても良い経験になりました。
- ・その後も合同で話しあいを行い、まず一体的なイベントをしようという話になっています。ダイエー芦屋浜店の方が空いたスペースを貸してくださるということです。また、メンバーのお一人が近くに使える場所があるということです。これらを活用し、11月か12月を目途として、スマートおせっかいグループと芦屋市創生ワーキングチームのメンバーがいっしょに企画したいと思っています。

(3) ひとり一役グループ

- ・ひとり一役グループは、お手伝いできる人と手伝ってほしい人のマッチングができる仕組みづくりを目的として活動しています。マッチングできる仕組みとはどのようなものかを考えましたが、いきなり大きな仕組みはできないので、実際に「ちょっと手伝ってほしいな」という人と「これくらいならできるよ」という人をつなぎながら、メンバーもいろいろな人とつながっていけば、より良いかたちになるのではないかと考えてすすめています。
- ・そこで「これくらいならできるよ」という人の活躍の場（イベント）をつくり、そこに来た人が誰かとお話することで「私にも何かできるのではないかと」思ってもらえるのではないかと、メンバーが関わっている「打出いこいの場まごのて」で、「ひとり一役の日」というイベントを開催することになりました。第1回はメンバーのひとりで朗読ボランティアをされている方をお願いして、10月19日に朗読会を行います。「おだやかに大きな声で話すことは良いことなのでお話ししましょう、話す相手がいなければ本でも新聞でもいいので声を出して読んでみましょう」ということで、参加された方にも短い文章を読んでいただき、「人に聴いてもらいましょう、人の話も聴きましょう」ということで朗読に入っていきたいと考えていますので、ぜひみなさんもお越してください。また、「こんなことができるよ」、「こんな場所を知ってるよ」という人も募集していますので、ご協力をお願いします。

3. 第3次芦屋市地域福祉計画への提案

- ・各グループでは、次のようなことに意識して取組をすすめてきています。これらは芦屋市の地域福祉全体をすすめていくうえでも重要であると考えられますので、地域福祉計画策定委員会でも検討し、第3次芦屋市地域福祉計画にも反映していただくよう提案します。

- 地域福祉の情報を、若い人に見てもらえる内容・方法で発信する。
→ インターネットやSNS（Facebook, Twitter, Instagram など）の活用など。
- 既存の情報発信（紙媒体等）と新しい方法が、効果的に連携できるようにする。
→ インターネット等で発信する情報は掲載期間が短いため、重要な情報や関心の高い記事は紙媒体・掲示板や口コミで伝えるなど。
- 安心して情報の発信や共有を行う（トラブルも防止する）ためのルールをつくる。
- 困ったとき（困りそうなとき）に気軽に行けて、支えあいにつながる身近な居場所が増えるように、場所・担い手・財源等の確保や情報発信を、地域の資源を活かしてサポートする。
- いろいろな人や組織（団体・事業者など）の「自分ができること（場所や資金の提供なども含めて）」と「支えてほしいこと」の情報を集約し、つなぐ仕組みをつくる。
- “スマート”に支える（声をかける、居場所に連れ出すなど）ためのスキルを広める。
- 活動に参加しようと思うインセンティブ（誘因）をつくる。
→ ポイントや地域通貨等を活用した有償の活動、活動の表彰や情報発信など。
- 既存の活動に、新しい人が参加しやすいようにサポートする。
→ お互いの理解を深めながら、得意なことが活かして補いあえるように、つなぐ。
- 市民・グループなどの主体的な活動の立ち上げ（きっかけとなるイベントなど）や継続を支援する仕組みをつくる。
→ 市が側面的に支援するうえでの役割なども検討する。
- プロジェクトを応援する地域福祉アクションプログラム推進協議会を充実する。
→ 第2次芦屋市地域福祉計画から第3次芦屋市地域福祉計画に向かってステップアップする。

- ・第2回の全体会ではグループを超えて話しあい、第3次芦屋市地域福祉計画に盛り込んでほしいことのキーワードを出しあいました。これらも地域福祉計画策定委員会で検討していただくよう提案します。

地域福祉の理解 (情報・学習) について	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を見やすく、わかりやすくする ・サービスの内容をわかりやすく発信する ・多世代から発信する ・地域活動への理解や意識を高める ・費用、場所、内容などの面で気軽に参加できる学びの場を増やす
コミュニティに ついて	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が転入し、だれもが長く住み続けられるようにする ・「魅力ある芦屋」の文化やイベントを探す、生み出す、発信する ・芦屋の魅力(きれいな景色、好きなどころ)を発見し、発信する、市外の人にも積極的に情報発信する ・まず地域の人を知り、近所の人と「顔が見える関係」を構築する ・身近なところから信頼関係をつくる ・地域にほどよい距離感の関係性をつくる ・生活スタイルの差をふまえて、みんなに受け入れられるものを考える、防災、高齢者、子どもなど切り口をたくさんつくる ・全世代が交流する、だんじり等の家族で参加できる機会を増やす、楽しいイベントを増やす ・コミュニティの必要性を感じる人を増やす ・活動を継承するよう、若い人が地域の活動に参加する
活動への参加や 支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・「してもらう・あげる」ではなく「できることをする相互関係」をつくる、「これくらいならできる」ことでお手伝いをする ・何かできる人を発掘し、支援する ・担い手を見つける、いろいろな人が担い手になれる仕組みをつくる ・みんなが役割をもち、担い手として活躍できる仕組みをつくる ・「できること・したいこと」がある人を支援する ・立ち寄りやすい場所、集まりに活用できる場所を増やす ・だれでも集まれ、参加できるようにする、気軽に参加できる場所がたくさんある ・活動費を捻出する(無償の活動は難しい) ・出かけやすい工夫をする(コミュニティバスなど)
ニーズへの気づ きや相談へのつ なぎについて	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる人に声をかける ・出会える工夫をする(自治会が高齢者にプレゼントを贈るなど) ・問題が表面化する前から支援する、普段から関わることで困ったときに言ってもらえるようにする ・相談しやすい雰囲気をつくる
“困りごと”の 支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人を助ける、困っている人と助ける人をつなぐ ・安心して無料で子どもが遊べ、見てくれる人がいる場を増やす
権利擁護につい て	<ul style="list-style-type: none"> ・心のバリアフリーとして外国の人にも関わる、関わるきっかけとして言葉を学ぶ場をつくる
暮らしやすいま ちづくりについ て	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な量の食材の配達など、ニーズにあわせた地域の取組やサービスをつくる ・生活に関わる場所(スーパー・投票所など)のアクセスをよくする
安全・安心なま ちづくりについ て	<ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りで声をかけあえるまちをつくる、あいさつ運動をすすめる、見まもり運動を広げる ・でしゃばりすぎずに見守る(「スマートおせっかい」をする) ・防災無線を聞きやすくする ・地域ごとに想定される災害に備えた訓練や設備の整備をすすめる
みんなですすめ るしくみづくり や協働について	<ul style="list-style-type: none"> ・団体どうしをつなぐ、協働する ・市民と行政の協働に参加する人を増やす ・市民や第三者の意見や情報を活かす ・市民と行政の合同の会議や取組を情報発信する